



2019年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年8月9日
東

上場会社名 フィンテック グローバル株式会社 上場取引所
 コード番号 8789 URL <http://www.fgi.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 玉井 信光
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 上席執行役員 (氏名) 千田 高 (TEL) 050-5864-3978
 四半期報告書提出予定日 2019年8月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年9月期第3四半期の連結業績(2018年10月1日～2019年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年9月期第3四半期	6,689	192.5	△1,307	—	△1,445	—	△1,210	—
2018年9月期第3四半期	2,286	△60.8	△1,095	—	△1,197	—	△874	—

(注) 包括利益 2019年9月期第3四半期 △1,378百万円(—%) 2018年9月期第3四半期 △934百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2019年9月期第3四半期	円 銭 △6.22	円 銭 —
2018年9月期第3四半期	△5.23	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2019年9月期第3四半期	百万円 20,382	百万円 9,260	% 38.3
2018年9月期	14,016	8,551	52.2

(参考) 自己資本 2019年9月期第3四半期 7,812百万円 2018年9月期 7,311百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2018年9月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 0.00
2019年9月期	—	0.00	—	—	—
2019年9月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無
2019年9月期の期末配当予想は未定としております。

3. 2019年9月期の連結業績予想(2018年10月1日～2019年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通期	11,040	199.3	510	—	310	—

(注) 1 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2 売上総利益の予想は、6,880百万円(前期比204.3%増)であります。

3 親会社株主に帰属する当期純利益の予想値は、開示を控えさせていただきます。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 1社 (社名) メツァ2号投資事業有限責任組合 (変更前の名称 FGTベンチャーファンドA号投資事業有限責任組合。なお、期中の当社資本金の増加により、当第3四半期末において当該組合は特定子会社に該当していません。)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2019年9月期3Q	201,109,600株	2018年9月期	185,986,400株
2019年9月期3Q	—株	2018年9月期	—株
2019年9月期3Q	194,751,237株	2018年9月期3Q	167,054,114株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(追加情報)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間は、メッツァビレッジが2018年11月9日に、ムーミンバレーパークが2019年3月16日に開業したことにより、入園料、有料施設利用料、物販、飲食、テナント賃料、駐車場料等の売上計上を開始いたしました。メッツァ（メッツァビレッジ及びムーミンバレーパーク）の来場者数は2018年11月の開業からの累計で2019年7月26日に100万人に達しております。本業の投資銀行事業については、M&A関連業務の受託収入、不動産・航空機アセットマネジメント収入、メッツァ賃料収入等を中心とする安定的な収入を確保する体質への改善が進んでおります。投融資については、アセット投資において特別目的会社を通じて取得した不動産の売却による投資回収（エグジット）がありましたが、ファンドを介したライフサイエンス・IT企業への投資で減損3.6億円が発生したこともあり、投資銀行事業の業績進捗は遅れました。

当第3四半期連結累計期間の売上高は、メッツァ開業の他、2018年9月期第2四半期以降の子会社増加も寄与して6,689百万円（前年同期比192.5%増）となり、売上原価はメッツァの物販・飲食の商品・材料仕入、諸経費、労務費のほか、子会社増加、企業投資の減損により4,413百万円（前年同期比356.4%増）となったことにより、売上総利益は2,275百万円（前年同期比72.4%増）となりました。販売費及び一般管理費は、投資銀行事業の人員増強による人件費、メッツァ関連費用が増加し、子会社増加の影響も受けて3,582百万円（前年同期比48.4%増）となった結果、営業損失は1,307百万円（前年同期は1,095百万円の損失）となりました。経常損失は支払利息105百万円を計上したことで1,445百万円（前年同期は1,197百万円の損失）となり、親会社株主に帰属する四半期純損失は、㈱アダコテックの第三者割当増資等に伴う特別利益（持分変動差益）120百万円や非支配株主に帰属する四半期純損失141百万円により1,210百万円（前年同期は874百万円の損失）となりました。

（単位：百万円）

	2018年9月期 第3四半期連結累計期間	2019年9月期 第3四半期連結累計期間	増減額
売上高	2,286	6,689	4,402
投資銀行事業	1,921	2,611	690
公共コンサルティング事業	294	593	298
エンタテインメント・サービス事業	103	3,685	3,582
その他	13	24	10
消去	△46	△226	△180
売上総利益	1,319	2,275	955
投資銀行事業	1,186	846	△340
公共コンサルティング事業	128	316	187
エンタテインメント・サービス事業	36	1,168	1,132
その他	13	24	10
消去	△45	△80	△35
営業損失（△） （セグメント利益又は損失（△））	△1,095	△1,307	△211
投資銀行事業	401	△378	△779
公共コンサルティング事業	△59	72	132
エンタテインメント・サービス事業	△639	△345	294
その他	△14	△12	1
消去又は全社費用	△783	△644	138
経常損失（△）	△1,197	△1,445	△247
税金等調整前四半期純損失（△）	△907	△1,295	△387
親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△874	△1,210	△335

セグメント別の業績は以下のとおりであり、売上高についてはセグメント間の内部売上高又は振替高を含めた売上高で表示しております。

① 投資銀行事業

投資銀行業務では、M&A関連業務において事業承継を必要とする企業の課題解決のソリューションを提供することで、成約件数は増加基調で推移しました。また不動産アセットマネジメント業務は受託資産の一部売却によって、成功報酬を売上計上しております。不動産等への自己投融資であるアセット投資においては、投資回収があり売上高は前年同期比で増加しましたが、企業投資においては、ベンチャーキャピタルファンドへの投資の減損により営業投資有価証券評価損を計上しました。

新規投融資は、不動産小口化信託受益権商品の組成のために不動産を投資ビークルを通じて取得し、販売活動を開始しました。なお、前連結会計年度の第2四半期から損益計算書を連結しているSGI-Group B.V. 及びその子会社4社が行う航空機アセットマネジメント業務は、堅調に推移しております。

また当社は、メッツァビレッジについて連結子会社である㈱ムーミン物語へのマスターリースにより、賃料収入を計上しました。

以上の結果、投資銀行事業の売上高は2,611百万円（前年同期比35.9%増）、セグメント損失は378百万円（前年同期は401百万円の利益）となりました。

② 公共コンサルティング事業

公会計事業では、地方公共団体に対する統一的な基準による財務書類作成のコンサルティング業務に加え、財務分析レポート作成や公営企業の経営戦略策定等の受託業務の営業活動を推進しております。地方創生事業は、市場拡大が見込まれるPPP/PFI手法の導入検討等受託業務を推進しております。

前連結会計年度の第3四半期から損益計算書を連結している㈱ジオプラン・ナムテックが行う都市インフラ管理システム事業は、既存の保守案件が順調に推移し、新規案件も取り込むことによって、着実に業務を拡大させました。なお当社は、2019年7月1日に当社保有の同社株式の一部を譲渡したことにより、同社は当社の持分法適用関連会社（持株比率34%）となりました。

以上の結果、公共コンサルティング事業の売上高は593百万円（前年同期比101.4%増）、セグメント利益は72百万円（前年同期は59百万円の損失）となりました。

③ エンタテインメント・サービス事業

エンタテインメント・サービス事業では、㈱ムーミン物語が運営する「メッツァビレッジ」が2018年11月に、「ムーミンバレーパーク」が2019年3月に開業しました。「メッツァ」では「チームラボ 森と湖の光の祭」、「森と、湖と、アンブレラと。」等を実施し多くのお客様にご来場いただき、2019年7月26日には100万人目（2018年11月からの累計）のお客様をお迎えすることができました。

㈱ムーミン物語が44.5%出資する㈱ライツ・アンド・ブランズについては、重要性が増したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。同社は、日本国内におけるムーミンキャラクターの使用許諾に関する独占的な権利を供与されたサブライセンサーとして事業を展開していますが、「ムーミンバレーパーク」の開業と合わせ、2019年4月より原画展「ムーミン展 THE ART AND THE STORY」の全国巡回や、保有するアニメ放映権の販売による新作テレビアニメシリーズ「ムーミン谷のなかまたち」もNHK BS4Kでの放映が開始されました。当社グループはムーミンの認知度とブランドバリューの更なる向上を目指すとともに、積極的に事業領域を拡大してまいります。

以上の結果、エンタテインメント・サービス事業の売上高は、メッツァビレッジ及びムーミンバレーパークの開業並びに㈱ライツ・アンド・ブランズの新規連結により3,685百万円（前年同期比3,476.2%増）となりましたが、メッツァビレッジ及びムーミンバレーパークの開業準備・運営費用等によりセグメント損失は345百万円（前年同期は639百万円の損失）となりました。

④ その他

㈱アダコテックは、解析システムの検証・組み込み等に多数のお引き合いをいただき、複数の適用プロジェクトが進捗しております。なお、㈱アダコテックは2019年6月に外部投資家に第三者割当増資を行うとともに、当社保有分を含む普通株式の一部を無議決権株式に変更したことにより、同社に対する当社の議決権比率が低下したため、当社の連結の範囲から除外して持分法適用関連会社としました。

その他の売上高は24百万円（前年同期比79.4%増）、セグメント損失は12百万円（前年同期は14百万円の損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(総資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末より45.4%増加し、20,382百万円となりました。これは主として、現金及び預金が1,038百万円、メツァビレッジ及びその他の不動産開発案件の竣工等により仕掛販売用不動産が2,781百万円減少したものの、企業投資の実行及び信託受益権化した不動産を保有する特別目的会社の子会社化により営業投資有価証券が929百万円、仕掛販売用不動産からの振替等により販売用不動産が3,905百万円、ムーミンバレーパークの竣工等により建物及び構築物（純額）が5,019百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は前連結会計年度末より103.5%増加し、11,122百万円となりました。これは主として、特別目的会社である子会社が金融機関に借入金3,260百万円を返済すると同時に、金融機関4行から長期ローン5,600百万円を調達したこと等によって、1年内返済予定の長期借入金が2,408百万円減少し、長期借入金が5,663百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末より8.3%増加し、9,260百万円となりました。これは主として、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等により利益剰余金が1,234百万円減少したものの、非支配株主持分が199百万円、新株予約権の行使等により資本金が910百万円、資本剰余金が848百万円増加したことによるものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態については遡及処理後の前連結会計年度末の数値で比較を行っております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

	売上高 (百万円)	売上総利益 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)
2019年9月期 (予想)	11,040	6,880	510	310
2018年9月期 (実績)	3,689	2,261	△1,072	△1,227
増減率	199.3%	204.3%	—	—
増減額	7,350	4,618	1,582	1,537

連結業績予想は上記の通りであり、2018年11月8日付の2018年9月期決算短信で公表した連結業績予想は据え置きとさせていただきます。

当期の投資銀行事業は企業投資の減損などにより、業績の進捗が遅れております。一方でエンタテインメント・サービス事業は、開業準備期間の費用負担が重かったものの、メツァの全面開業によりセグメント損益は急速に

改善しており、連結業績を牽引しております。

期末に向けて当社グループは、投資銀行事業においてM&A関連業務等の業務受託や不動産小口化商品の販売、投資回収（エクジット）等を、エンタテインメント・サービス事業においてはメツァの各種集客施策等を推し進めております。現在はこれらの進捗を慎重に見極めているところであり、業績予想の修正が必要と判断される場合には、速やかに公表いたします。

なお、親会社株主に帰属する当期純利益に関しましては、(株)ムーミン物語が進めている第三者割当増資による非支配株主持分の増加が影響を与えることが考えられます。この結果は投資家の動向にもよることから、現時点で合理的に予想することは困難であるため、親会社株主に帰属する当期純利益は開示しない方針としております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,267,738	3,229,128
受取手形及び売掛金	644,824	550,902
営業投資有価証券	1,017,184	1,946,758
営業貸付金	576,924	552,070
販売用不動産	304,516	4,210,227
仕掛販売用不動産	2,781,914	700
商品	15,298	200,681
原材料及び貯蔵品	1,634	22,997
その他	386,376	954,453
貸倒引当金	△117,232	△109,318
流動資産合計	9,879,178	11,558,600
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	236,436	5,326,331
減価償却累計額	△19,782	△89,842
建物及び構築物(純額)	216,653	5,236,488
建設仮勘定	2,455,866	27,200
その他	645,193	2,224,719
有形固定資産合計	3,317,713	7,488,408
無形固定資産		
のれん	268,344	277,962
その他	74,843	552,392
無形固定資産合計	343,188	830,354
投資その他の資産		
投資有価証券	85,248	165,409
その他	391,206	339,977
貸倒引当金	△264	—
投資その他の資産合計	476,191	505,387
固定資産合計	4,137,093	8,824,149
資産合計	14,016,272	20,382,750

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	293,215	391,332
短期借入金	—	532,000
1年内返済予定の長期借入金	3,586,081	1,177,583
未払法人税等	73,216	99,084
賞与引当金	114,928	109,590
その他	734,587	1,478,217
流動負債合計	4,802,029	3,787,808
固定負債		
長期借入金	532,787	6,196,582
退職給付に係る負債	91,640	96,518
その他	38,664	1,041,104
固定負債合計	663,091	7,334,204
負債合計	5,465,120	11,122,012
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,551,419	6,461,911
資本剰余金	4,149,561	4,997,873
利益剰余金	△2,387,101	△3,621,522
株主資本合計	7,313,879	7,838,262
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,166	△4,662
為替換算調整勘定	△13,754	△21,586
その他の包括利益累計額合計	△2,588	△26,248
新株予約権	54,605	64,351
非支配株主持分	1,185,254	1,384,372
純資産合計	8,551,151	9,260,737
負債純資産合計	14,016,272	20,382,750

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2017年10月1日 至2018年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2018年10月1日 至2019年6月30日)
売上高	2,286,483	6,689,057
売上原価	967,095	4,413,854
売上総利益	1,319,387	2,275,203
販売費及び一般管理費	2,415,156	3,582,887
営業損失(△)	△1,095,768	△1,307,684
営業外収益		
受取利息	6,623	3,042
債務時効益	4,916	5
受取和解金	—	5,821
その他	623	1,983
営業外収益合計	12,163	10,852
営業外費用		
支払利息	50,935	105,492
為替差損	41,485	12,067
支払手数料	20,633	31,334
その他	1,119	53
営業外費用合計	114,174	148,947
経常損失(△)	△1,197,780	△1,445,779
特別利益		
持分変動差益	—	120,722
関係会社株式売却益	267,387	58,845
その他	23,675	2,988
特別利益合計	291,063	182,556
特別損失		
固定資産売却損	—	891
固定資産除却損	670	28,807
その他	—	2,377
特別損失合計	670	32,076
税金等調整前四半期純損失(△)	△907,387	△1,295,300
法人税、住民税及び事業税	30,106	87,795
法人税等調整額	794	△31,242
法人税等合計	30,900	56,552
四半期純損失(△)	△938,288	△1,351,852
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△63,779	△141,430
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△874,509	△1,210,422

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)
四半期純損失(△)	△938,288	△1,351,852
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	13,376	△15,828
為替換算調整勘定	△9,096	△11,090
その他の包括利益合計	4,279	△26,919
四半期包括利益	△934,008	△1,378,771
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△867,423	△1,234,082
非支配株主に係る四半期包括利益	△66,585	△144,689

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間において、新株予約権の行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ910,492千円増加しております。この事項とその他の変動を含めた結果、当第3四半期連結会計期間末において、資本金が6,461,911千円、資本剰余金が4,997,873千円となっております。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2017年10月1日 至 2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	投資銀行 事業	公共コンサル ティング事業	エンタテイン メント・ サービス事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,881,329	289,844	101,527	2,272,701	13,782	2,286,483	—	2,286,483
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	40,102	5,000	1,537	46,639	—	46,639	△46,639	—
計	1,921,432	294,844	103,064	2,319,341	13,782	2,333,123	△46,639	2,286,483
セグメント利 益又は損失 (△)	401,005	△59,415	△639,737	△298,147	△14,092	△312,240	△783,528	△1,095,768

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、連結子会社が行っているソフトウェアの開発・販売事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△783,528千円には、セグメント間取引消去97,040千円及び報告セグメントに配分していない全社費用△880,569千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整しております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第1四半期連結会計期間において、当社が保有するベターライフサポートホールディングス(株)の全株式を譲渡し、連結の範囲から除外したことにより前連結会計年度の末日に比べ、「不動産事業」のセグメント資産が5,740,285千円減少しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「投資銀行事業」において、第1四半期連結累計期間に、当社の連結子会社であるフィンテックグローバルトレーディング(株)が設立した合同会社SGIインベストメントが、SGI-Group B.V.の株式を新規取得しております。なお、当該事象による「投資銀行事業」ののれんは、当第3四半期連結会計期間においては195,020千円であります。

また、「公共コンサルティング事業」において、第2四半期連結累計期間に、当社の連結子会社である(株)ナムテックが、(株)ジオプラン・ナムテックの全株式を取得しております。なお、当該事象による「公共コンサルティング事業」ののれんは、当第3四半期連結会計期間においては87,046千円であります。

(重要な負ののれんの発生益)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	投資銀行 事業	公共コンサル ティング事業	エンタテイン メント・ サービス事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	2,400,483	584,795	3,679,049	6,664,328	24,729	6,689,057	—	6,689,057
セグメント間 の内部売上高 又は振替高 (注) 4	211,055	9,000	6,713	226,769	—	226,769	△226,769	—
計	2,611,539	593,795	3,685,763	6,891,098	24,729	6,915,827	△226,769	6,689,057
セグメント利 益又は損失 (△)	△378,172	72,719	△345,434	△650,886	△12,130	△663,017	△644,666	△1,307,684

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、連結子会社が行っているソフトウェアの開発・販売事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△644,666千円には、セグメント間取引消去182,773千円及び報告セグメントに配分していない全社費用△827,439千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整しております。

4 「投資銀行事業」におけるセグメント間の内部売上高又は振替高には、「投資銀行事業」に属する当社が「エンタテインメント・サービス事業」に属する連結子会社である㈱ムーミン物語に賃貸するメッツァビレッジの賃料収入186,190千円が含まれております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「エンタテインメント・サービス事業」において、㈱ライツ・アンド・ブランドの新規連結に伴う、当第3四半期連結会計期間ののれんは、43,121千円であります。

(重要な負ののれんの発生益)

該当事項はありません。